



峡南地域は、山梨県の南側、富士山の西側一帯に広がる地域です。富士川の悠久の流れとともに暮らしてきた人々のやさしさと温かさは、訪れる者の心を癒やします。大塚にんじん、南部茶、ゆずやあけぼの大豆など特産の農産物の栽培が盛んで、世界最古の温泉旅館や身延山久遠寺などの歴史、和紙や雨畑硯などの伝統工芸、移りゆく四季の自然など、魅力にあふれています。中部横断自動車道の開通を機に中京圏や関東圏も近くなっている地域です。

市川三郷町 | 早川町 | 身延町 | 南部町 | 富士川町

# 峡南地域



# 市川三郷町

Ichikawamisato Town

人口: 13,669人  
世帯数: 6,571世帯  
総面積: 75.18 km<sup>2</sup>  
人口密度: 181.82 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

1.42

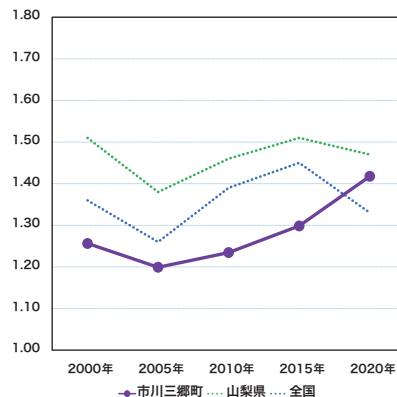
ベイズ推定値 1.43

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

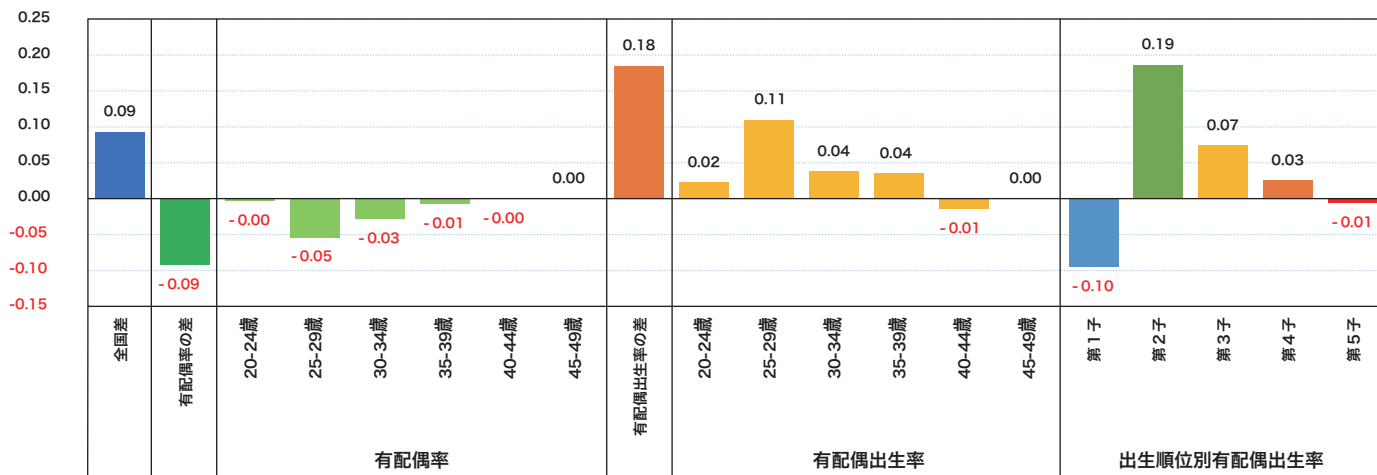
全国との差 +0.09  
ポイント

県内との差 -0.04  
ポイント

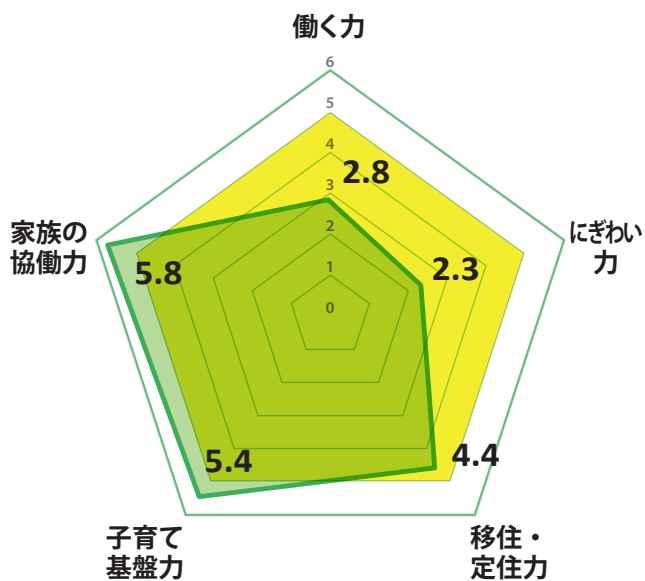
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



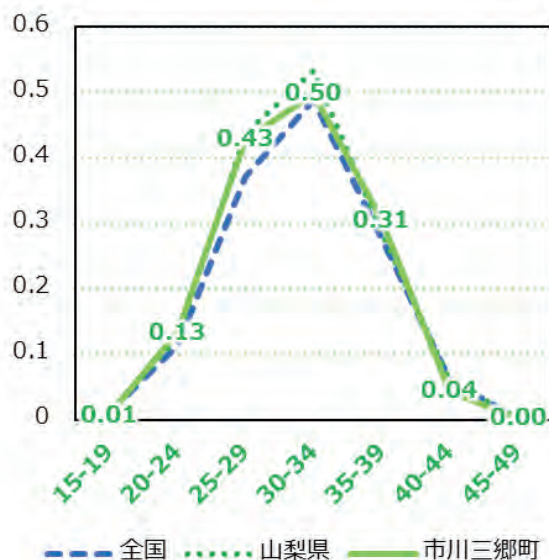
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

全国的に少子化が進行する中、本町には保育所から高校までが整備されており、充実した教育環境が整えられております。また教育課程においても小中一貫のふるさとキャリア教育「みさと学」を取り入れ、地域・企業・行政が一体となり、「ふるさとに愛着と誇りを持ち、夢と希望を胸に未来を切り拓く子どもたちの育成」に取り組んでおります。

町で育った子どもたちが大きく羽ばたいた後、その子どももまた、ふるさと市川三郷町で育てたいと思える町を目指してまいります。



市川三郷町長  
遠藤 浩

## 我が街のアピールポイント

市川三郷町は甲府盆地の南西に位置し、芦川・笛吹川・富士川が流れる水と緑に抱かれ、芦川渓谷や県立四尾連湖自然公園などの自然も満喫することができる山紫水明の町です。肥沃な土壌「のっぴい」に育まれた農産物、一千年の歴史を誇る和紙と武田氏の狼煙に始まる花火、日本有数の生産量を誇る印章産業などの基幹産業をはじめ、日本夜景遺産「みはらしの丘みたまの湯」や「神明の花火大会」など魅力あふれる地域資源を数多く有しています。

新たに策定した第3次総合計画では、「ひと・自然・伝統」「つなぐ。つながる。」いちか『わ』みさと"をまちの将来像に掲げ、教育・子育て・福祉の充実や防災減災対策の推進、観光振興と交流拠点整備など町民・事業者・行政が知恵とエネルギーを結集し、1つの『輪』となるまちづくりを目指します。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 子ども子育て応援事業

#### <目 的>

子ども子育て応援宣言を発出し、「町、町民、企業、子育て支援関係団体と協働して、町全体で子育て支援を推進し、さらなる充実、子育て支援の気運を高める」ことを目的としています。

#### <概 要>

- ◆子ども子育てキックオフミーティングの開催や子育て後援会の実施、また子育て応援団体・公共施設・企業へのポスター掲示など。
- ◆子育てを担う全ての人々が子育てしながら働きやすい環境整備への呼びかけ。
- ◆子育て環境への充実を図り、「子どもの健やかな成長」が最大限実現される社会の構築。
- ◆子育てしやすいまちづくり施策の展開。【事業メニュー】医療費助成事業・子育て世代包括支援センター事業・産後ケア事業・放課後児童クラブ強化事業など

## 分 析

市川三郷町は、出生率の全国差は0.09でプラスである。結婚要因はマイナスであるが、夫婦の出生力要因の高さによって、総合的には全国よりも高い出生率である。夫婦の出生力要因では第2・3子の寄与度が全国よりも高く、定住している夫婦の出生力は安定している。一方で、結婚要因と第1子のマイナスの寄与は、若い夫婦が全国に比べて少なく、結婚を機に転出する傾向などが示唆される。地域力で見ると、働く力・にぎわい力が平均より低く、移住・定住力も若干低い。

年齢別有配偶率は20～39歳まで全国よりも低く、とりわけ25-29歳のマイナスの寄与度が大きい。夫婦の出生力では第2子・第3子の寄与度が高い。年齢別出生率で見ると、25-29歳の出生率は全国よりも高く、若くして結婚している夫婦の安定した出生力により第2子以降の出生力が維持されていると解釈できる。

## 対 策

家族の協働力と子育て基盤力が平均よりも高いことが第2子以降の安定的な出生力を支えていることがうかがえるが、若い夫婦の雇用・定住が進むような施策が求められる。

未来への  
処方箋

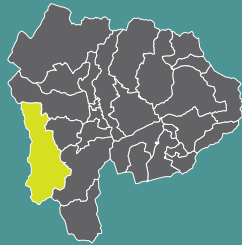


# 早川町

Hayakawa Town

人口: 960人  
世帯数: 530世帯  
総面積: 369.96 km<sup>2</sup>  
人口密度: 2.59 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

1.04

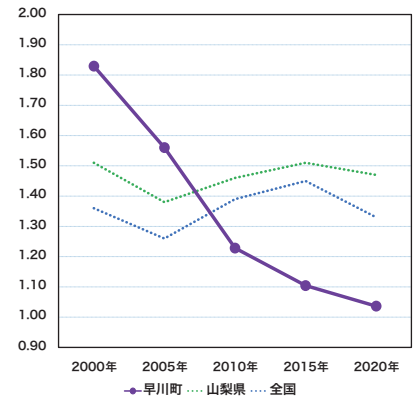
ベイズ推定値 1.33

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

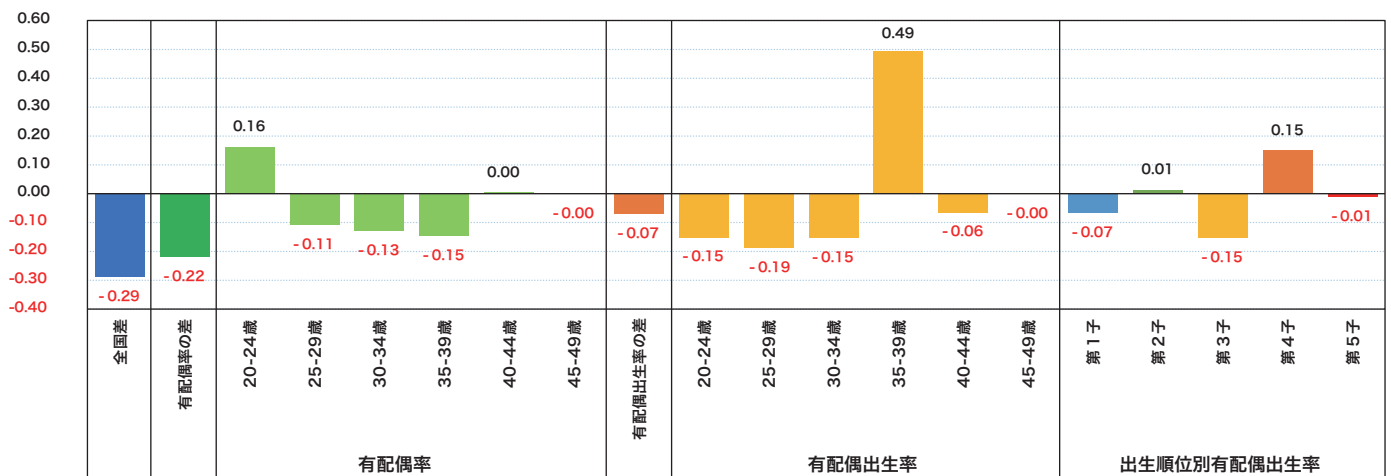
全国との差 -0.29 ポイント

県内との差 -0.42 ポイント

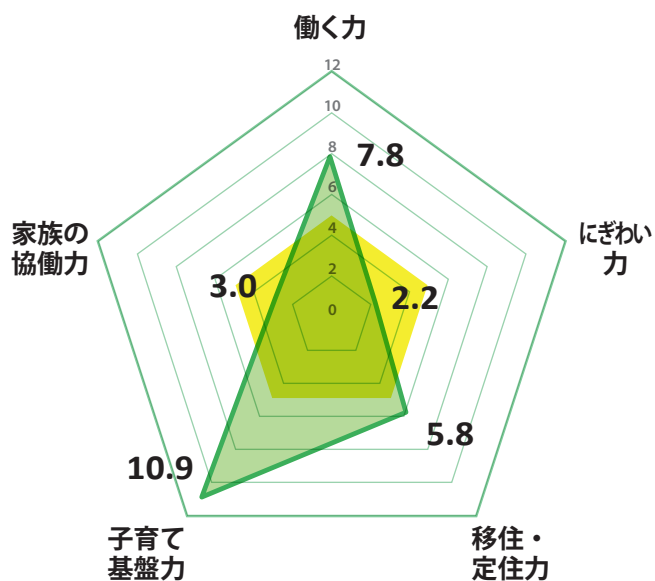
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



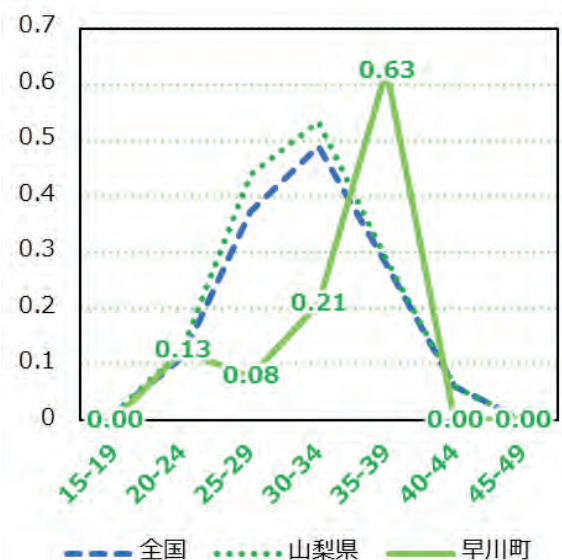
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

早川町では、「地域の子どもたちは地域の手で育てる」という意識が強い地域です。子育て世代は消防団や地域の活動など過疎地域の中で一番の力になっている世代です。少子化というだけでなく、町づくりという観点からも、若い世代を応援したいと思っています。

子どもたちは地域の宝、国の宝です。将来を担う子どもたちを応援するのは当然のことだと思っています。



早川町長  
深沢 肇

## 我が街のアピールポイント

西に南アルプス連峰、東に櫛形山系、南は身延山地に囲まれた典型的な山あいの町で、町の面積の約96%が森林です。町の中央部を流れる早川を主流に多くの支流が注ぎ、それに沿って大小の滝、溪谷があり四季折々景観を形成しています。

さらに、日本を東西に分断する大断層「糸魚川―静岡構造線」が町を北から南に縦断しており、地質学的にも非常に特別な地域となっています。

また、温泉資源も豊富で、西山地区にある、奈良田・西山を中心に町内各所に泉質の違った良質な温泉が多く湧出しています。

このような恵まれた自然環境の中で、都会では味わえない貴重な体験や学習ができる。それが早川町です。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 義務教育無償化事業（小中学校教材費等無償化事業・早川町学校給食費補助事業）

#### <目 的>

早川町の児童生徒の安定した就学環境の一層の充実化を図り、未来を担う子供たちの健全な育成と保護者の教育費負担を軽減することにより、家庭生活環境の向上と安心して子供を育てやすい環境づくりを支援する。

#### <概 要>

小中学校の教育に必要な教材費（教材別テスト・ドリル・教科別学習ノート・夏冬休みの友・卒業アルバム制作費等）、校外学習経費（修学旅行に関する費用・社会科見学に関する費用・スキー、スケート教室に関する費用）を全額公費で負担する。さらに児童生徒の保護者が負担する学校給食に要する経費を全額補助する。

## 分 析

早川町の出生率は全国に比べて顕著に低く-0.29である。とりわけ結婚要因のマイナスの寄与度が大きく、夫婦の出生力もマイナスである。出生順位別にみると、第2子は全国よりも若干高いが、第1子のマイナスの寄与度と第3子の顕著なマイナスの寄与度が際立っている。

年齢別にみた有配偶率の寄与度では20-24歳の有配偶率は顕著に全国よりも高いが、25～39歳の有配偶率ではマイナスの寄与となるなど、極端な分布となっている。

年齢別出生率は出生数が少ないことにより、25-34歳の出生率が顕著に低く、35-39歳が極端に高いなど、データが安定的ではなく解釈が難しい。

## 対 策

地域力でみると、働く力と子育て基盤力、移住・定住力は平均よりも高いが、それが有配偶率の高さに結びついていない。一方で家族の協働力が低い点が第3子の寄与がマイナスであることを示唆している。家族や地域住民同士のつながりを強化する交流イベントなどの取り組みなどが考えられる。地域コミュニティを活性化させることで、新しい出会いや、子育て世帯同士が支え合う機会が増える。これにより、25-34歳の若年層の結婚・出生力向上にもつながることが期待される。

未来への  
処方箋



# 身延町

Minobu Town

人口: 9,897人  
世帯数: 4,893世帯  
総面積: 301.98 km<sup>2</sup>  
人口密度: 30.60 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

1.00

ベイズ推定値 1.23

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

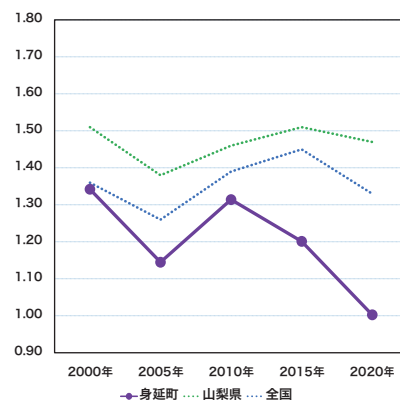
全国との差 -0.33

ポイント

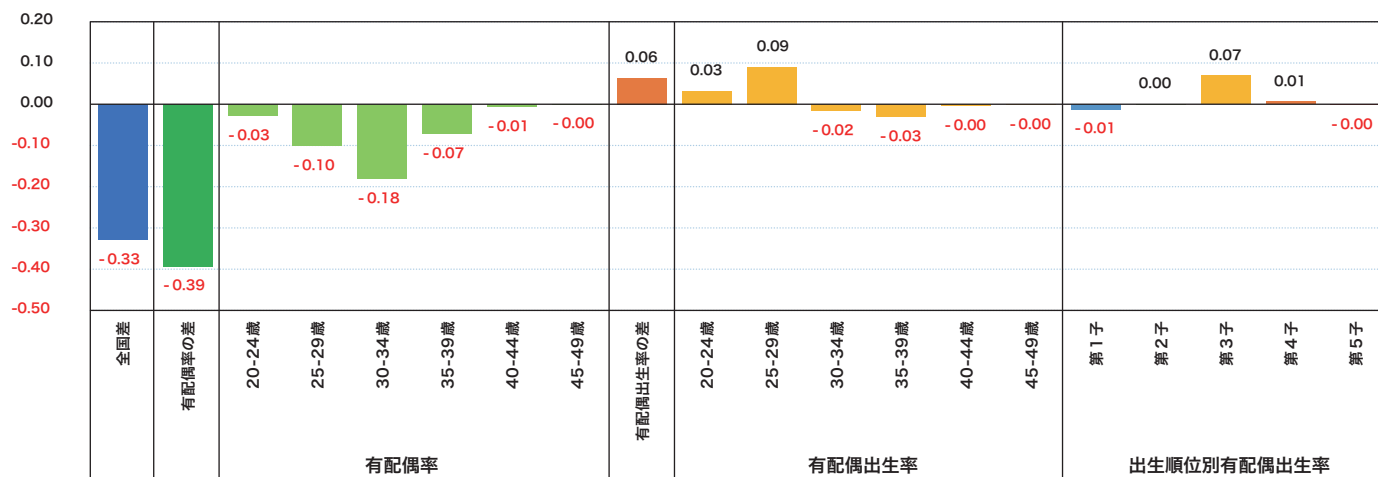
県内との差 -0.46

ポイント

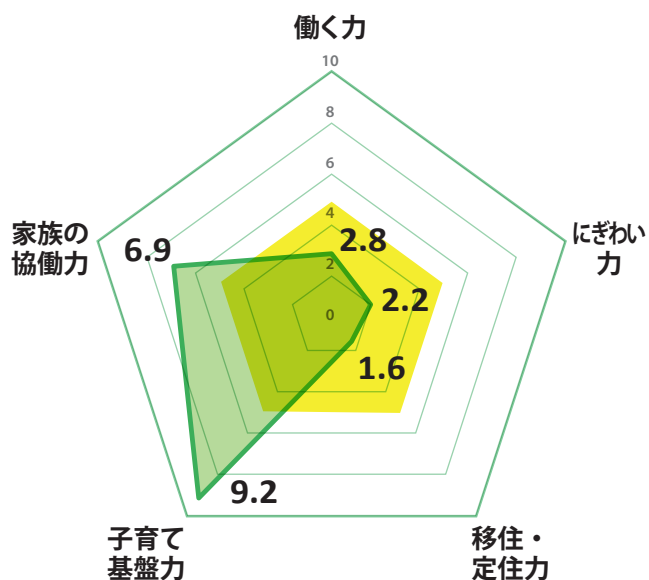
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



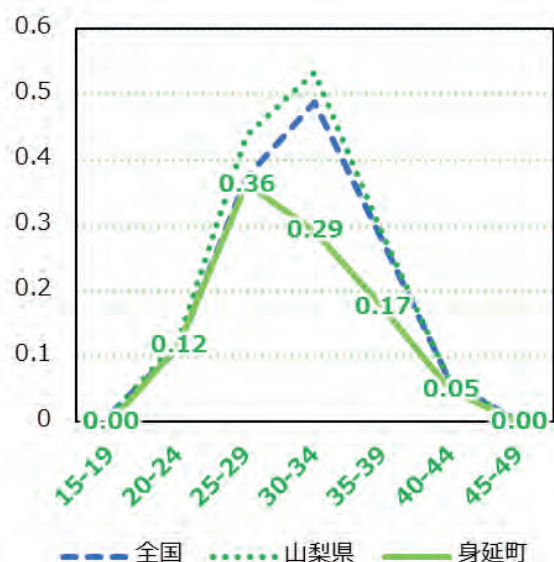
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

身延町では「生まれてよかった 育ってよかった 住んでよかった」と思えるまちづくりとして、地域の活力と魅力を高め、生活の質の向上へ向けた取り組みを行い、町民優先を第一に常に見据えた展望に立ち、町民福祉の向上のため最善の努力をすることで町民の皆様と一緒に明るい未来を創り上げていきます。



身延町長  
望月 幹也

## 我が街のアピールポイント

観光資源として、道の駅にしじま和紙の里「かみすきパーク」、旧千円札の富士山のモデル地「本栖湖」、武田信玄公の隠し湯「しもべ温泉郷」、日蓮宗総本山「身延山久遠寺」、県下最大級の公園「富士川クラフトパーク」、食では地理的表示（GI）保護制度に登録され、地域性が強く希少価値の高い幻の大豆「あけぼの大豆」、日蓮宗総本山の開山から750年食べられてきた「みのぶゆば」、伝統産業として、450年の歴史を持つ手漉きの「西嶋和紙」などの豊富な資源により古くから地域に根差した地場産業が発展してきました。

また、身延山久遠寺のしだれ桜は特に有名であり、町のシンボル「シダレザクラ」を町全域に広げる「日本一のしだれ桜の里づくり事業」を推進しています。近年では漫画・アニメ「ゆるキャン△」の舞台となり、全国から聖地巡礼に訪れるファンも多くいます。

ぜひ一度訪れて身延町の魅力を体感してみてください。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 子育て・教育環境の充実事業

#### <目 的>

まち全体で子どもたちの成長と子育てを応援するという視点に立ち、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、だれでも安心して子育てのできる環境の向上と様々な経済的支援を行うことにより、子どもを持ちたいと思える気持ちを醸成し、後押しをする。

#### <概 要>

出産から乳幼児期の子育て支援や小・中学校おける保護者によるPTA会費を除く教育費の負担をゼロにしている。  
「出産から乳幼児期の子育て支援」

・不妊治療費助成金、出産・子育て応援給付金、出産祝金、子育て支援医療費助成、病児・病後児保育事業、乳幼児おむつ購入費用助成、保育園入園支度金、保育園利用料の無償化、保育園副食費の無償化、英語学習機会の充実 他  
「小学生・中学生・高校生」

・入学支度金の支給、給食費の全額補助、校外学習費全額補助、補助教材費の公費負担、修学旅行費の全額補助、英検・漢検・数検検定料の全額助成、学習支援教室の無料開催、町単独での教職員配置 他

## 分 析

身延町の出生率の全国差は-0.33である。結婚要因のマイナスの寄与が大きく、夫婦の出生率はプラスであるが、第1子の寄与度はマイナスであるなど、若い夫婦の定住が進んでいない点がうかがえる。第3子のプラスの寄与度が夫婦の出生力要因のプラスをけん引している。

年齢別出生率は25-29歳を頂点とする比較的若い出生構造であり、それが第3子の寄与の高さを裏付けている。

## 対 策

地域力をみると、子育て基盤力・家族の協働力は平均よりも高い点が第3子の寄与度のプラスに貢献している。一方で、働く力・にぎわい力・移住・定住力の低さが若者の転出等に影響していることを示唆している。雇用の安定、職場までの交通アクセス、住環境など若い子育て世代が移住しやすい体制の整備が求められる。

未来への  
処方箋



# 南部町

Nanbu Town

人口: 6,449人  
世帯数: 3,013世帯  
総面積: 200.87 km<sup>2</sup>  
人口密度: 32.11 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

1.01

ベイズ推定値 1.23

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

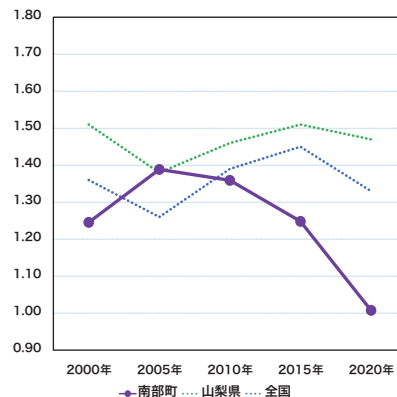
全国との差 -0.32

ポイント

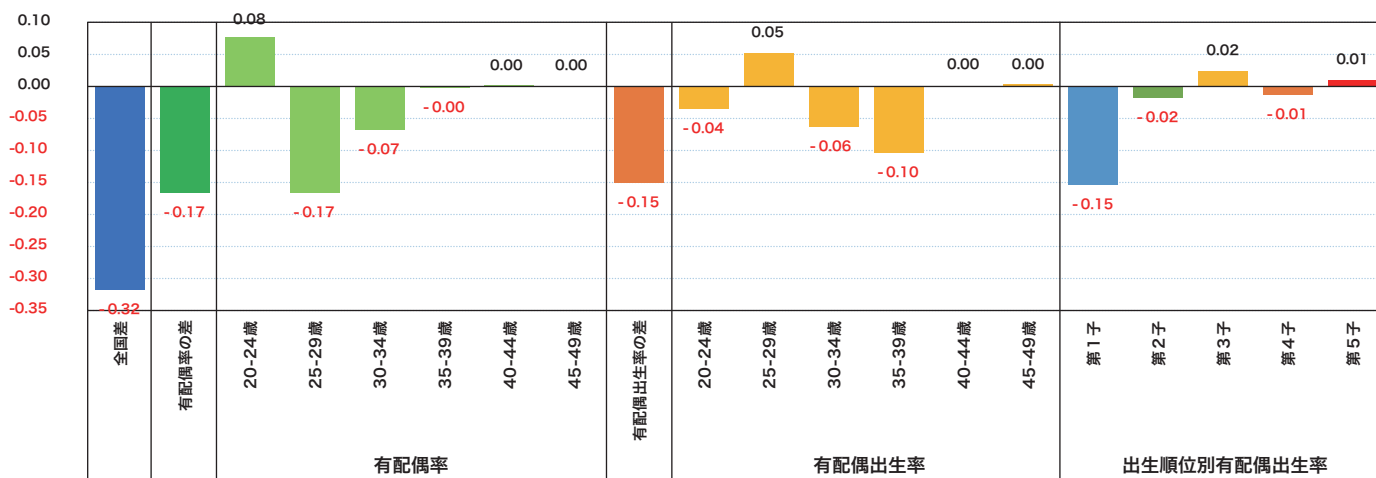
県内との差 -0.45

ポイント

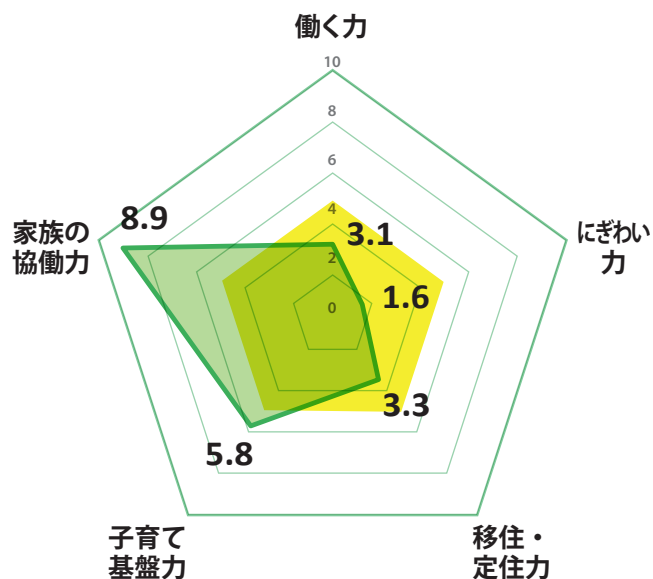
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



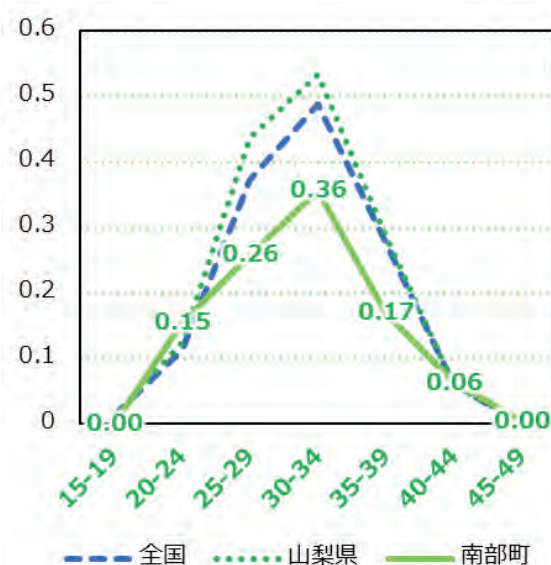
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

コロナ禍以降、アウトドア志向の若年層を中心に交流人口増は見られるが人口減は止まらない。町の懸案事項の解消やインフラ整備にほぼ目安が着いた為、いよいよ子育て世代への支援策に乗り出す時が来た。その中でも特に若者向けの住宅不足が指摘されているので、手始めに集合住宅の建設に踏み込んでいく。幸い就業先の静岡県富士市・富士宮市への交通アクセス向上により、町がかねてから目指していた都市へのベッドタウン化が進むものと思われる。



南部町長  
佐野 和広

## 我が街のアピールポイント

### ● 子育て世代、若者世代へ向けて

南部町では、子育て世帯のご家族が明るく楽しく生活できるように、絵本作家の宮西達也先生に書き下ろしていただいた「タケノコマン」を町の公式キャラクターと決めました。「タケノコマン」は町の子供たちの健やかな成長を支援するために誕生したキャラクターです。子供たちが「すくすく」成長することを願っています。

南部町は、一時間圏内に避暑地や海水浴場があり、季節を問わずキャンプやゴルフ等のレジャーが楽しめる場所です。また、ほとんど渋滞などのストレスがない、とても「立地がリッチ」な町です。みんなで「ストレスフリー」に楽しみましょう。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 南部町地域活性化住宅整備事業及び宅地分譲地造成事業

#### <目 的>

若者定住促進及び子育て支援のために、集合賃貸住宅の建設と宅地分譲地の造成を一体的に実施することにより、若者の定住を促し、地域の活性化に結びつけることを目的としています。

#### <概 要>

平成22年度末で廃校となった中学校校舎解体後、平成26年2月に賃貸住宅を完成させ、隣接するグラウンドには宅地分譲地を造成して、平成29年3月に募集を開始しました。賃貸住宅は、鉄筋コンクリート2階建(全10戸)で、1戸が約52㎡の3DKの全室オール電化となります。入居者は要件を満たした若者世代で、家賃は月額33,000円(共益費含む)、子ども一人につき5,000円の減額(最大15,000円)がされるなど、子育て世帯に特化した住宅となっています。宅地分譲地は、10区画を造成し、1区画の平均が241㎡(73坪)となっています。また、要件を満たした世帯であれば、土地購入費が実質50%となる奨励事業も適用されます。現在、分譲地すべてが完売。賃貸住宅も常時満室の状態が続いています。

## 分 析

南部町は、全国の出生率との差が-0.32であり、結婚要因と夫婦の出生力要因が両程度にマイナスの寄与度となっている。とりわけ第1子のマイナスの寄与が大きく、第3子はプラスである。

年齢別にみた有配偶率では、20-24歳の寄与度が顕著に高い他はマイナスの寄与度となる。年齢別出生率も20~24歳は高いものの、25~39歳の出生率が全国や山梨県よりも低く、低出生力の状況を反映している。

## 対 策

地域力をみると、家族の協働力が顕著に高く、子育て基盤力も平均より高いなど第3子を持つ環境を有しているものの、働く力・にぎわい力・移住・定住力などで、若者や若い夫婦の定住を促進するには至っていない状況がうかがえる。地域内での雇用機会の創造や生活に活力を見出すことが課題となる。若年世代が南部町で就労しやすい環境整備や地域交流の場を作り、「地域の子育て基盤力」が高いことを活用し、初めての子育てに対する不安軽減に繋がる支援体制などが求められる。

未来への  
処方箋



# 富士川町

Fujikawa Town

人口: 13,499人  
世帯数: 6,310世帯  
総面積: 112.00 km<sup>2</sup>  
人口密度: 120.53 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

1.37

ベイズ推定値 1.41

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

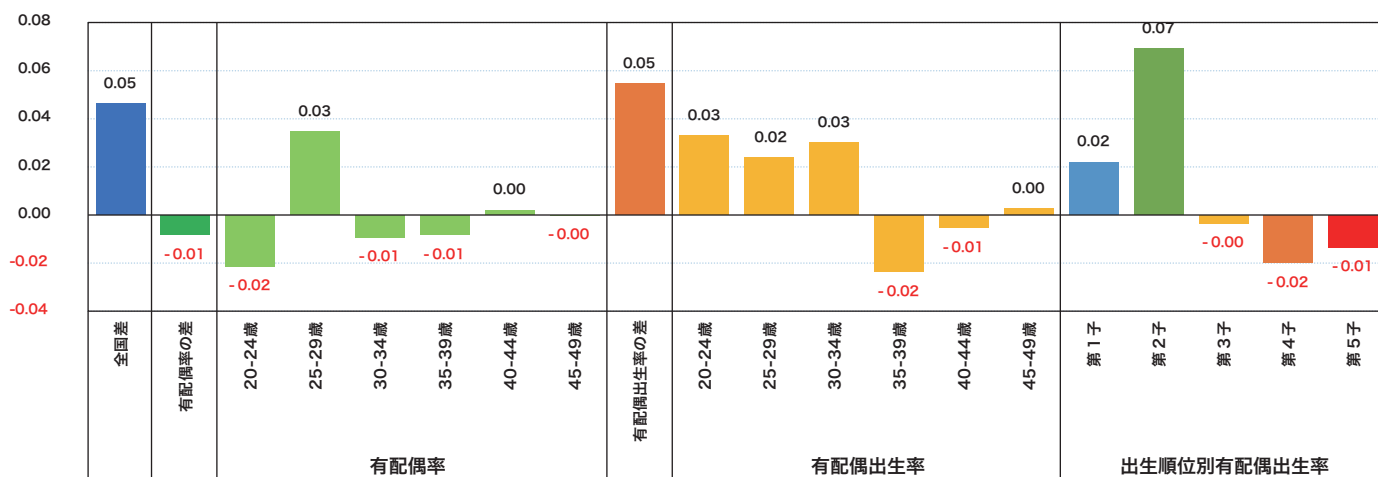
全国との差 +0.04  
ポイント

県内との差 -0.09  
ポイント

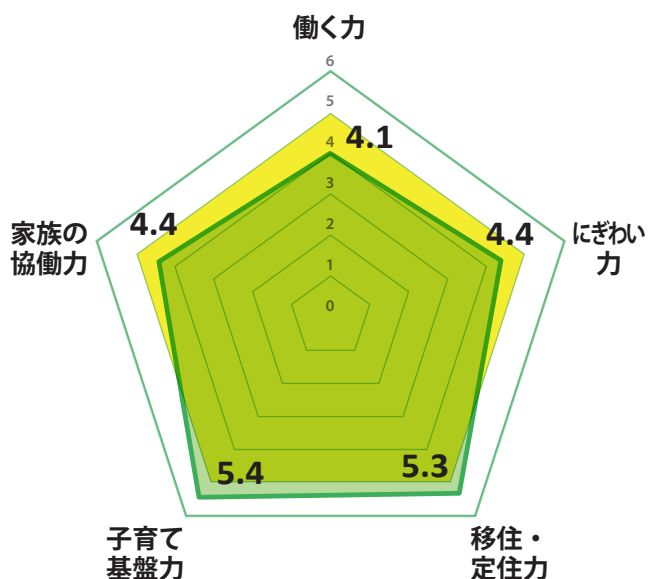
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



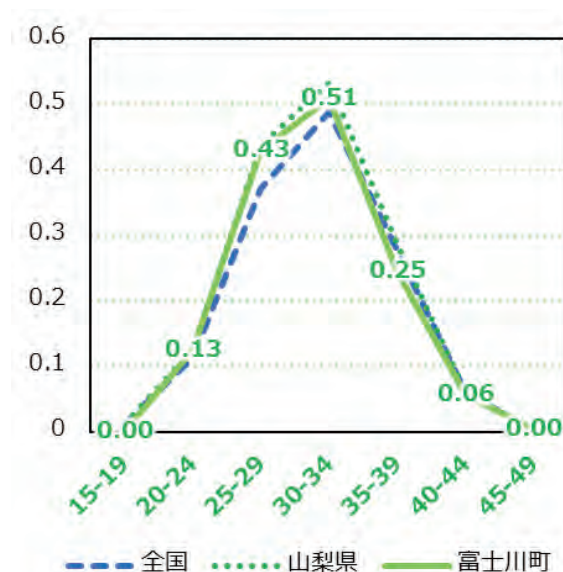
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

富士川町では、人口減少対策を最重要課題と位置づけ、様々な施策を展開しています。定住奨励金や空き家改修費補助などの移住・定住促進策、子ども医療費助成や病後児保育などの子育て支援を実施しています。また、就労・定住支援、医療・福祉の充実にも力を入れています。今後は、産後ママの応援事業や在宅育児応援金、給食費の無償化など、さらなる支援策の充実を目指します。これらの取組を通じて、子育て世代が安心して暮らせる町づくりを進め、人口減少に歯止めをかけていきたいと考えています。



富士川町長  
望月 利樹

## 我が街のアピールポイント

富士川町は、雄大な富士山と清流富士川に抱かれた自然豊かな町です。四季折々の美しい景観が楽しめる大柳川渓谷や、温泉施設「かじかの湯」や「まほらの湯」など、魅力的な観光スポットが点在しています。また、歴史的にも重要な富士川舟運の拠点として栄えた町であり、その歴史を伝える資料館は町内外から多くの方が利用しています。

町では、SNSを活用した情報発信に力を入れており、魅力発信アンバサダー制度を設けるなど、町の魅力を広く伝える取り組みを行っています。自然、歴史、文化が調和した富士川町で、心温まる「おもてなし」をぜひ体験してください。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 富士川町の産後ママ応援事業

#### <目 的>

- ・産後の体力回復を図る
- ・子育ての不安や悩みを解消する
- ・地域の方々とのつながりを深める

産後の母親の心身の健康回復と子育ての不安解消を目的としています。

#### <概 要>

富士川町の産後ママ応援事業は、産後6か月までの産婦を対象に、お弁当を提供する子育て支援策です。この事業は、産後の体力回復を図り、子育ての不安や悩みを解消することを目的としています。さらに、産後うつ予防や虐待防止にもつながる、支援策の一つとなっています。この事業を通じて、産後の母親の心身のケアと地域コミュニティとの連携強化が期待でき、富士川町が目指す「県内トップクラスの子育て支援」の実現に向けた取組の一環となっています。

## 分 析

富士川町の出生力の全国差は0.05のプラスであり、夫婦の出生力要因の高さが影響している。とりわけ第2子の寄与度が高く、安定した出生力を示している。一方で結婚要因は若干のマイナスである。地域力は安定的な分布を示しており、とりわけ移住・定住力と子育て基盤力が平均よりも高く、第1～2子のプラスの寄与度の高さを説明している。

年齢別にみた有配偶率の寄与度をみると25～29歳の寄与度がプラスである他はマイナスである。年齢別出生率は25～34歳の出生率が全国よりも高い出生力を示している。

## 対 策

結婚要因に影響を与える働く力に関連する施策への取り組みが求められる。

未来への  
処方箋

